

2026年1月30日
生活文化局
公益財団法人東京都歴史文化財団

令和8(2026)年度 都立文化施設の展覧会・公演ラインアップ (第2弾)

～江戸東京博物館、ついにリニューアルオープン！全展覧会・公演を一挙公開～

都立文化施設では、令和8年度も各館の特色を生かした展覧会・公演を開催します。本リリースでは、第1弾で未公開だった内容を含む全ラインアップを第2弾として一挙にご紹介します。

注目は、令和4年4月に休館し、3月31日にリニューアルオープンする江戸東京博物館。新たな魅力を加えた企画の数々を年間通して展開します。

さらに、開館100周年を迎える東京都美術館をはじめ、各館において子供から大人まで楽しめる幅広いプログラムを用意しています。令和8年度の都立文化施設のラインアップにぜひご期待ください。

※本リリースで紹介している事業の詳細は、財団ウェブサイトをご覧ください。 <https://www.rekibun.or.jp/>

東京都江戸東京博物館

江戸東京博物館リニューアル記念特別展

大江戸礼賛

2026年4月25日～5月24日



東都両国ばし夏景色 橋本貞秀/画 安政6年 東京都江戸東京博物館蔵



萌黄句威腹巻具足 明珍宗周/作 江戸末期 東京都江戸東京博物館蔵

江戸博始動！
「大江戸」の魅力に迫る特別展

江戸東京たてもの園

街を見守った交番の歴史をたどる

特別展

万世橋交番と盛り場の風景

2027年3月20日～6月20日



絵葉書「須田町」 大正期

東京都美術館



東京都美術館 旧館外観
1963年撮影 東京都美術館アーカイブズ

日本初の公立美術館！
歴史を紐解く

東京都美術館開館100周年記念
はじまりをひらく 東京都美術館の100年
2026年11月19日～2027年1月11日

東京都庭園美術館



ルーシー・リー《青釉鉢》1980年頃
井内コレクション(国立工芸館寄託)
撮影:品野 壘

日本で人気の高いルーシー・リー、
約10年ぶりの大回顧展

ルーシー・リー展
—東西をつなぐ優美のうつわ—
2026年7月4日～9月13日

東京都写真美術館



出光真子《Still Life》1993-2000年、ミクスト・メディア

映像表現のパイオニア、
初の美術館大回顧展

出光真子
2026年6月18日～9月21日

東京都現代美術館



多田美波《周波数 37306505》1965 東京都現代美術館蔵
「MOTコレクション Eye to Eye—見ること」(2024)展示風景
Photo: Masaru Yanagiba

彫刻から建築まで先駆的な
表現に挑んだ女性作家の回顧展

多田美波
2026年8月29日～12月6日

トーキョーアーツアンドスペース



三野 新《Untitled (Research photographs)》
2025年

ソウルとの交流
20周年を記念した企画展

TOKAS Project Vol. 9「東京×ソウル」
2026年10月3日～11月8日

東京都渋谷公園通りギャラリー



【参考画像】志村信裕《Dress》2012/2015年
Photo: Ken Kato

渋谷に癒しの
アート空間が出現！

心の声をきく わたしを生きる術(すべ)
2026年6月27日～8月30日

東京文化会館



東京文化会館 リラックス・パフォーマンス ©堀田力丸

Music Program TOKYO Workshop Workshop!

大規模改修工事のため、令和8年5月7日～令和10年度中(予定)の期間は休館します。休館中も、都内施設で各種事業を継続!

誰もが楽しめるコンサートや
ワークショップをお届けします!

東京芸術劇場



公演チラシ

300人を超える
出演者による超大作の
全曲演奏が実現

水野修孝／
『交響的変容』
2026年5月10日

※事業名は変更する場合があります。会期は予定です。今後の状況により、予定が変更となる場合があります。上記以外の事業については、別紙をご覧ください。

※一部施設では期間限定で夜間特別開館を開催予定です。

※事業は、東京都令和8(2026)年度予算が東京都議会で可決された場合及び、公益財団法人東京都歴史文化財団令和8(2026)年度予算が財団理事会で可決され、同評議員会が承認した場合に確定します。

注 目

国際美術展「TOKYO ATLAS」

(公財)東京都歴史文化財団は、東京都及び東京国際芸術祭実行委員会と共催で、2026年10月から臨海エリアで国際美術展「TOKYO ATLAS」を開催します。WHAT MUSEUMでは、若手アーティスト・若手人材による特別展を展開します。国内外の若手アーティストを継続的に育成してきたトーキョーアーツアンドスペース(TOKAS)の運営やアートマネジメント人材の育成プログラムの展開など、長年にわたる若手人材の育成の実績を持つ当財団が中心となって、天王洲の街と連携しながら若い才能の活躍の場を創出していきます。

会期:2026年10月10日～12月20日(72日間)

会場:

(台場エリア) 台場公園 / お台場海浜公園

(青海エリア) 青海南ふ頭公園 / テレコムセンタービル

(天王洲エリア) WHAT MUSEUM / アイルしながわ



テレコムセンタービルアトリウム

お問い合わせ

生活文化局文化振興部文化事業課 TEL: 03-5000-7237

<TOKYO ATLASについてはこちら> 生活文化局文化振興部企画調整課 TEL: 03-5000-7228

公益財団法人東京都歴史文化財団 総務部 総務課 TEL: 03-6256-9070

アーツカウンシル東京 企画部 広報課 TEL: 03-6256-9967 / WEB: <https://www.rekibun.or.jp>

※個別の事業につきましては、別紙に記載の各施設の広報担当者までお問い合わせください。

東京都江戸東京博物館（1）

事業名	会期	概要
企画展 「市民からのおくりもの」令和3～7年度 新収蔵品展	2026年4月25日～ 5月17日	2021から2025年度まで、休館期間を含む5年間にわたり続けてきた当館の収集活動。その結晶を披露する特別展です。この間、当館の収蔵品に加えることができた約8,800点の資料の中から、厳選した収蔵品をご紹介します。江戸のなりわいと文化を物語る道具から、近現代の東京を映し出す写真まで。バラエティー豊かな新収蔵品の世界を心行くまでお楽しみください。
江戸東京博物館リニューアル記念特別展 「大江戸礼賛」	2026年4月25日～ 5月24日	コレクションの逸品を軸に据え、実物資料と会場の演出が織りなす展示空間に浸っていただく、まさにリニューアルオープンを記念する祝祭企画。武士の都でありながら、華やかな町人文化が花開いた都市・江戸。その奥深い魅力を、わかりやすい展示構成と解説で存分に味わえます。当館ならではの「楽しさ」を、今こそ再発見してください。
企画展 「発掘された日本列島2026」	2026年6月13日～ 7月26日	全国では毎年約8,000件の発掘調査が実施されていますが、その成果に実際に触れる機会は、極めて限られています。本展は文化庁と共催し、近年発掘調査が行われた中でも特に注目された出土品を中心に展示を構成。埋蔵文化財を通じた日本の歴史・文化の魅力発信とその保護の重要性に迫ります。
江戸東京博物館リニューアル記念特別展 「洋館 明治の夢と挑戦」	2026年6月23日～ 8月23日	日本における洋風建築の需要が高まりをみせた明治時代。新政府による欧化政策や新たな時代の象徴として、急速に展開・普及した「洋館」について、本格的西洋建築の成立までの物語をひもときます。大工棟梁による擬洋風建築や、外国人技術者による非本格的洋館、外国人建築家たちの手がけた本格的西洋建築、日本人建築家の挑戦、宮家や華族のための大邸宅など。「洋館」をテーマに多種多様な資料と立体的な展示手法で、時代を旅するような体験に触れていただけます。
企画展 「出光×江戸博コレクションによる浮世絵展」	2026年8月25日～ 9月27日	出光美術館と当館の初めてとなるコラボレーション企画。現在休館中の出光美術館に所蔵される数ある名品の中から、江戸時代中期の芝居と遊里をテーマにした肉筆浮世絵を、当館所蔵の歴史資料と共に展示します。出光美術館の名品と、当館の歴史資料。2館の初コラボレーションにぜひご期待ください。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京都江戸東京博物館 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

東京都江戸東京博物館（2）

事業名	会期	概要
江戸東京博物館リニューアル記念・NHK大河ドラマ特別展「豊臣兄弟！」	2026年9月15日～11月8日	2026年（令和8年）に放送されているNHKの大河ドラマ「豊臣兄弟！」と連動した展覧会です。豊臣秀吉を支えた弟・秀長の活躍や秀吉が成し遂げた天下統一に至るまでの歴史について、秀吉・秀長や同時代に活躍した戦国大名所用の資料、桃山文化を代表する美術工芸品を通して、幅広い視点からその魅力をお届けします。
企画展 「日米交流 知のかけはしーラトガース・カレッジと幕末明治の日本人留学生ー」	2026年10月24日～12月6日	アメリカ合衆国ニュージャージー州ニューブランズウィック市にあるラトガース・カレッジ（現ニュージャージー州立ラトガース大学）。アメリカで最も古い歴史を持つ大学の一つであるこの大学は、幕末明治期に数多くの日本人留学生を受け入れたことでも著名です。同校で学んだ留学生は近代日本の建設を担い、ラトガース出身のアメリカ人教師も来日して明治の教育に多大な貢献をしました。本展は、当館所蔵コレクションを中心に、アメリカへ渡った留学生と教師たちとの交流にスポットを当て、黎明期における日米交流の歴史を紹介します。
江戸東京博物館リニューアル記念特別展 「円山応挙」	2026年11月28日～2027年1月24日	円山応挙の精緻な絵画は当時爆発的な人気を集め、円山派という一大流派を築き、近代絵画にも大きな影響を与えました。本展では、円山応挙の画業の全貌を紹介すると共に、従来高く評価されてきた作品にもう一度迫ります。兵庫県香美町の亀居山大乘寺（通称「応挙寺」）の協力を得て、重要文化財「孔雀の間（予定）」の空間を再現。18世紀の京都画壇で圧倒的な人気を博した応挙の生涯を代表する作品群を、新たな研究成果を踏まえ、様々な角度からお伝えします。
企画展 「徳川将軍家の幕末・明治ー天璋院篤姫とその時代ー」	2027年1月2日～2月14日	当館と公益財団法人徳川記念財団では、これまで徳川将軍家にかかわる展覧会を開催してきました。今回は同財団が所蔵する徳川宗家伝来の資料を中心に、天璋院篤姫の生涯と江戸開城後の徳川宗家をテーマとした展示を行います。幕末という激動の時代を乗り越え、明治以降の徳川宗家の礎を築いた天璋院篤姫の生涯や素顔を、愛用品やその思想を示す資料を手掛かりに探ります。
江戸東京博物館リニューアル記念特別展 「江戸オシャレ」	2027年2月13日～4月4日	江戸後期、都市・江戸で花開いた「粋」な装い。その背景を振り返りながら、装うことの楽しみを現代の視点で捉えなおしてみます。最新研究を取り入れながら、当館が収蔵する優品や初出品の資料などを展示。複製資料による着装展示、紺屋の作業風景を再現した模型、生地の手触展示など、多彩な体験をお楽しみいただけます。着物や型染の面白さ、楽しさなど、「江戸のオシャレ」をご堪能ください。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
詳細は東京都江戸東京博物館 広報担当までお問い合わせください。
※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

東京都江戸東京博物館（3）

事業名	会期	概要
えどはくカルチャー	年38回程度開催 スペシャルカルチャー 年4回程度開催	当館の学芸員・研究員などの講師が、江戸東京の歴史と文化に関する調査研究の成果を分かりやすく解説する「えどはくカルチャー」。江戸東京のさまざまなことがらを楽しく学べる大人気の講座シリーズです。
えどはく移動博物館	出張展示 年3回程度開催	あなたの街にも江戸東京博物館が！「移動博物館」と題し、出張展示を実施します。江戸時代から近現代までを対象に、レプリカや模型・パネルなど、常設展示のエッセンスをぎゅっとまとめてお届けします。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京都江戸東京博物館 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

お問い合わせ

東京都江戸東京博物館

〒130-0015 墨田区横網1-4-1

TEL: 03-3626-9974 / WEB: <https://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

開館時間: 9:30～17:30（土曜日は19:30まで） ※1

休館日: 月曜日（祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館）、年末年始 ※1

※1 リニューアルオープン（2026年3月31日）後の最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。

江戸東京たてもの園（1）

事業名	会期	概要
特別展 昭和100年と江戸東京たてもの園	2026年3月20日～ 6月21日	江戸東京たてもの園の地は、戦前・戦後・平成の各時代にそれぞれ独自の役割を与えられ、多くの人々が活躍する場所でした。小金井大緑地、上皇陛下ゆかりの地、高度経済成長期に各地の発掘調査を行った武蔵野郷土館の地、そして失われていく建物を残した江戸東京たてもの園の地。これらはそれぞれの時代背景を切り離して語ることはできません。昭和元年より満100年を迎える節目の年にあたり、この地がどのような歴史をたどったかを見つめ直します。
こどもの日イベント	2026年5月4日～5日	ゴールデンウィーク期間中の2日間、こどもの日にちなんだ企画を実施します。鯉のぼりがそよぐ広場では、大人も子供も一緒に昔のあそびを楽しめます。また、商店建築が建ち並ぶ東ゾーンでは、昔のおつかいを体験できるゲームを開催。江戸東京たてもの園の建物を活用して、昔の暮らしを楽しく知ることができるイベントです。
武蔵野の歴史と民俗～ 「武蔵野郷土館」がのこしたモノたち～	2026年7月18日～ 12月13日	武蔵野郷土館は、戦前の東京郷土資料陳列館以来の系譜を引く郷土博物館です。江戸東京たてもの園の開園にあたって閉館となり、多くの貴重な資料が引き継がれました。たてもの園は、武蔵野郷土館収蔵資料を広く公開する役割を担い、収蔵資料展を継続的に開催しています。考古資料や歴史資料、民俗資料など郷土館が収集した幅広い分野の資料を紹介します。
夜間特別開園 たてもの園 下町夕涼み	2026年8月1日～ 2日	開園時間を特別に延長し、夏の夕べの過ごし方を体感していただける催しです。園内の「下町中通り」では、商店に提灯や建物のあかりをともし、下町の夏の風情をお届けします。伝統的な日本の民家では、夕べの涼やかな風を感じながら過ごしていただけます。
夜間特別開園 紅葉とたてもののライトアップ	2026年11月21日～ 22日	秋が深まる頃、特別に開園時間を延長して行う催しです。園内の色付き始めた木々と復元建造物をほのかな光で美しく照らし出し、建物の中にはあたたかなあかりが灯る、昼間とは趣の異なる夜のたてもの園を散策していただけます。仕立屋に復元した大正時代のガス灯の点灯、民家の囲炉裏や洋館の暖炉に火を入れる催しなど、昔のあかりやぬくもりを体感いただけます。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
詳細は江戸東京たてもの園 広報担当までお問い合わせください。
※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

江戸東京たてもの園（2）

事業名	会期	概要
たてもの園でお正月	2027年1月2日～3日	お正月はたてもの園へ。2日、3日は無料で開園し、皆様をお迎えします。園内の復元建造物にしめ飾りや門松を立て、獅子舞や太神楽などの新年にふさわしい伝統芸能をご覧ください。また、江戸時代より庶民に親しまれていた縁起物の「宝船絵」（印刷物）を先着順でプレゼントします。
成人の日はたてもの園へ	2027年1月11日	ハレの日の記念に、歴史ある建造物が建ち並ぶ江戸東京たてもの園で新成人をお祝いする催しです。人力車での園内めぐりのほか、復元建造物である常盤台写真場内のスタジオでは、お手持ちのカメラで記念撮影ができます。新成人の皆様は無料で入園いただけます。
特別展 万世橋交番と盛り場の風景	2027年3月20日～ 6月20日	「万世橋交番（須田町派出所）」は、江戸東京たてもの園唯一の煉瓦造りの建造物で、神田万世橋のたもとにあった交番です。交番は明治時代に誕生し、1888年（明治21年）には地域の巡回を行うため全国に配置されていきました。万世橋交番のあった神田須田町一帯は、江戸時代以来の交通の要衝であり、近代以降も繁華街として大変賑わった場所でした。本展覧会では、交番の歴史や建築、地域とのつながりを掘り下げ、建造物の背景及び近代における東京の盛り場の風景を再発見します。
たてもの園フェスティバル	2027年3月27日～28日	たてもの園前広場の桜のつぼみがほころぶこの時季に、子供から大人まで一緒に楽しめる催しを行います。誰もが参加できるクイズラリーをはじめ、アーティストによるパフォーマンスなど、春めく園内でさまざまな事業を行います。開園記念日の3月28日は無料で入園いただけます。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は江戸東京たてもの園 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

お問い合わせ

江戸東京たてもの園

〒184-0005 小金井市桜町3-7-1（都立小金井公園内）

TEL: 042-388-3300 / WEB: <https://www.tatemonoen.jp/>

開園時間: 9:30～17:30（10月～3月は16:30まで）

休園日: 月曜日（祝日・振替休日の場合は開園、翌平日休園）、年末年始

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。

東京都美術館（1）

事業名	会期	概要
特別展「東京都美術館開館100周年記念 スウェーデン絵画 北欧の光、日常のかがやき」	2026年1月27日～4月12日	雄大な自然や心地よい暮らしで知られる北欧への関心が高まる中、スウェーデン美術を紹介する展覧会を開催します。スウェーデン国立美術館の全面協力のもと、スウェーデン美術黄金期ともいえる19世紀末から20世紀にかけて生み出された魅力的な絵画を通して、自然と共に豊かに生きる北欧ならではの感性に迫ります。
特別展「東京都美術館開館100周年記念 アンドリュー・ワイエス展」	2026年4月28日～7月5日	20世紀アメリカ具象絵画を代表する画家アンドリュー・ワイエス（1917-2009）の回顧展。91歳で没するまで自分の身近な人々と風景を描き続けたワイエスの作品には、自分のいる側と向こう側を隔てる象徴として窓や扉といったモチーフが多用されます。本展はそれらのモチーフを中心に、ワイエスが描いた世界を見ていきます。
東京都美術館開館100周年記念 都美セクショングループ展 2026	2026年6月10日～7月1日	従来の発想にとらわれず新しい表現を追求する現代作家たちの創作活動の支援を目的としたグループ展です。東京都美術館の展示空間だからこそ実現可能な、グループによる展覧会企画を公募し、審査により選出した3つのグループによる展覧会を開催します。
企画展「東京都美術館開館100周年記念 この場所の風景―上野・大牟田・ブエノスアイレス」	2026年7月23日～10月7日	日本初の公立美術館として誕生し、美術家たちの作品発表の場として日本近現代美術の展開と共に歩んできた東京都美術館。そこから遠く離れた場所で、発表を前提とせず私的／個人的に展開された美術活動。それぞれの「100年」を並行して振り返ることで、美術の持つ根源的な意味や、美術館の今後のあり方について再検討する機会を創出します。
特別展「東京都美術館開館100周年記念 大英博物館日本美術コレクション 百花繚乱～海を越えた江戸絵画」	2026年7月25日～10月18日	4万点に及ぶ大英博物館の日本コレクションから、江戸時代の屏風、掛軸、絵巻の絵画作品と、歌麿、写楽、北斎、広重など代表的な8人の浮世絵師による版画を中心に、優れた作品を厳選して紹介します。さらに、近年の調査成果や収集の背景にも光を当てることで同館が日本美術の収集・研究・保存の第一線で果たしてきた役割をたどります。
特別展「東京都美術館開館100周年記念 オルセー美術館所蔵 いまを生きる歓び」	2026年11月14日～2027年3月28日	「印象派の殿堂」と称されるオルセー美術館のコレクションから、「いまを生きる歓び」をテーマに絵画や彫刻、工芸や写真など約110点を展示。近代化により急速に変わりゆく19世紀から20世紀初頭の社会で生まれた芸術は、絶えざる技術革新の波を生きる今の私たちに、なお新鮮な視座を示してくれます。ミレー《落穂拾い》をはじめ、ルノワール、モネ、ファン・ゴッホらの作品を通して、多様な歓びのあり様をご紹介します。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京都美術館 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

東京都美術館（2）

事業名	会期	概要
企画展「東京都美術館開館100周年記念 あなたが世界を読むために」	2026年11月19日～ 2027年1月11日	本展では、アルベルト・ジャコメッティ、砂澤ビッキ、谷川俊太郎、エレナ・トゥタッチコワ、山西ももの作品を通して、アートを「世界を読む」行為として捉えます。身体や言葉、自然を手がかりに表現された作品は、「世界とは何か」という問いを投げかけ、見る者に自身の存在の核心に触れ得るような機会を開いてくれることでしょう。
東京都美術館開館100周年記念 はじまりをひらく 東京都美術館の100年	2026年11月19日～ 2027年1月11日	東京都美術館の100年の歴史を振り返る展覧会です。1926年に上野の地に誕生した東京都美術館は、多様な展覧会の舞台となったばかりでなく、美術に親しみ、美術館をより身近に感じられるような活動にも先駆的に取り組み、人々と共にそのあゆみを紡いできました。本展では、当館所蔵のアーカイブズ資料を中心に、写真や印刷物をとおして、日本初の公立美術館の歴史を紐解きます。
東京都美術館開館100周年記念レクチャーシリーズ	2026年8月	東京都美術館開館100周年を記念し、当館のこれまでの振り返り、「これからの公共美術館のあり方」を展望するレクチャーシリーズです。2012年の大規模改修に伴うリニューアルを機に始動したアート・コミュニケーション事業について、「市民参加」、「ケアと美術館」、「ユニバーサルミュージアム」、「ろう文化」、「子どもの美術館体験」、「公共性」といった、当館の実践から生まれた多様なテーマを専門家の皆さんと深めていきます。
東京都美術館開館100周年記念シンポジウム	2026年12月	東京都美術館開館100周年を記念し、当館のこれまでの振り返り、「これからの公共美術館のあり方」を展望するシンポジウムです。8月のレクチャーシリーズでの実践報告を踏まえ、「関わり」、「ケア」、「アクセシビリティ」といった視点から美術館の活動を見つめ直し、これからの美術館の役割を探ります。美術館の社会的役割の変遷や、100年先を見据えた展望について、哲学者や人類学者などの専門家にお話しいただきます。
東京都美術館×東京藝術大学 「とびらプロジェクト」	通年	美術館を拠点にアートを介してコミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクト「とびらプロジェクト」。毎年広く一般から募集するアート・コミュニケータ（とびラー）と、学芸員や大学の教員、そして第一線で活躍中の専門家が共に美術館を拠点に、芸術や文化資源を活かしながら、人と作品、人と人、人と場所をつなぐ活動を展開しています。年間を通して、一般の方が参加できるプログラムを実施し、2月頃にはフォーラムも開催します。
建築ツアー	奇数月の第3土曜日 など年15回程度開催	展覧会だけではなく、美術館の建物そのものも楽しんでほしい！そんな思いから始まったツアーです。東京都美術館のアート・コミュニケータ（とびラー）の案内で、館内外を散策し、建築の魅力に迫ります。ガイド個々人のオリジナリティが発揮され、それぞれ独自のツアーを展開中です。各回のツアー日時・内容は、当館の公式ウェブサイトにて随時お知らせします（要事前申込）。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
 詳細は東京都美術館 広報担当までお問い合わせください。
 ※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

東京都美術館（3）

事業名	会期	概要
障害のある方のための特別鑑賞会	特別展ごとに1回開催	障害のある方がゆったりと安心・安全に特別展を鑑賞できるよう、休室日に特別鑑賞会を開催しています。特別展ごとに1回開催し、東京都美術館のアート・コミュニケータ（とびラー）が当日のサポートをします（要事前申込）。
Museum Start あいうえの	通年	Museum Start あいうえのは上野公園に集まる9つの文化施設が連携し、子供と大人が学びあえる環境を創造する「ラーニング・デザイン・プロジェクト」です。ファミリー&ティーンズ・プログラム、学校プログラム、ダイバーシティ・プログラムを年間を通して開催し、ミュージアムが持つ豊かな文化資源を使った主体的な学びの場を継続的に支援していきます（要事前申込）。
Creative Ageing ずっとび	通年	誰もがクリエイティブに歳を重ねられる社会を目指し、シニア世代の方々を対象にした参加型の鑑賞や異世代交流の機会、認知症のある方を対象にしたプログラムなどの企画を実施します。
東京都美術館開館100周年記念 アート・コミュニケーション事業を体験する 2026	2026年7月31日～8月10日	2012年から始まったアート・コミュニケーション（AC）事業の歩みとそのエッセンスを振り返り、多彩なAC事業が体験できる展覧会を開催します。シリーズ企画の第4弾となる本年は、東京都美術館開館100周年を記念し、「ギフト×ギフト」をテーマに掲げ、過去から未来へ文化を繋ぐ美術館のあり方を考えます。本展では、当館が有する文化資源と人々の間に創出される新たな価値に注目した展示を行うことに加え、多様なバックグラウンドを持つ市民のアート・コミュニケータ（とびラー）と一緒に、さまざまなアート・コミュニケーションが楽しめる場を作ります。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京都美術館 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

お問い合わせ

東京都美術館

〒110-0007 台東区上野公園 8-36

TEL: 03-3823-6921 / WEB: <https://www.tobikan.jp>

開館時間: 9:30～17:30（特別展開催中の金曜日は20:00まで）

休館日: 第1・第3月曜日（祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館）、年末年始、整備休館

特別展・企画展は毎月曜日休室（祝日・振替休日の場合は開室、翌平日休室）

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。

東京都庭園美術館

事業名	会期	概要
建物公開2026「アニマルズ in 朝香宮邸」	2026年4月11日～ 6月14日	年に1回開催する建物公開展。今年のテーマは「アニマルズ」です。1933年に竣工した朝香宮邸の内装には、動物がモチーフとして登場するほか、当時は白孔雀や鶴なども生活していました。本展ではこうした朝香宮邸の中の動物たちにくわえ、20世紀の西洋における動物表現の一端についても紹介します。古代より人間と密接な関係を築いてきた動物の魅力を、邸宅の雰囲気や再現した旧朝香宮邸において、堪能していただきます。
ルーシー・リー展—東西をつなぐ優美のうつわ—	2026年7月4日～ 9月13日	20世紀を代表するイギリスの女性陶芸家、ルーシー・リー（1902-1995）。ウィーン、ロンドンなどのエッセンスを吸収した彼女のうつわの魅力は、しなやかながらも芯を感じさせる優美な形や色彩とされます。本展では、リーと交流のあった関連作家たちの作品もあわせて展示し、彼女が出会った人や時代背景を交えつつ紹介しながら、その造形の源泉や作品に表された信念を紐解きます。
マリメッコ展	2026年10月3日～ 12月20日	フィンランドを代表するデザイン・ブランド、マリメッコ。1951年の創業以来、世に送りだされたプリント・デザインは3500種類以上にのぼります。鮮やかな色彩と大胆な模様によって、私たちの生活を豊かに彩るデザインは、世代や国境を超えて広く支持されてきました。本展では、貴重なヴィンテージ・ドレスやファブリック、制作過程のイメージなど、多彩な資料を通してマリメッコの創造の美学を明らかにします。
リトアニアの手工品展	2027年1月16日～ 3月28日	さまざまな苦難の歴史を歩んできたリトアニアですが、人々は恵まれた自然を崇拝し、穏やかな暮らしをしてきました。自然素材を活かした手作りの品々はシンプルですが、自然や命への感謝や祈りが込められています。近代工業を駆使したアール・デコの装飾空間の中で、手作りの素朴な品々は何を語るでしょう。その対比が見どころです。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
詳細は東京都庭園美術館 広報担当までお問い合わせください。
※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

お問い合わせ

東京都庭園美術館

〒108-0071 港区白金台5-21-9

TEL: 03-3443-0201 / WEB: <https://www.teien-art-museum.ne.jp>

開館時間: 10:00～18:00

休館日: 月曜日（祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館）、年末年始

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。

東京都写真美術館（1）

事業名	会期	概要
W. ユージン・スミスと ニューヨーク ロフトの 時代	2026年3月17日～ 6月7日	20世紀を代表するアメリカの写真家W. ユージン・スミス（1918-1978）。彼は1954年にジャーナリズム誌『ライフ』を去ったあと、ニューヨークの通称「ロフト」と呼ばれる場所で、マイルス・デイヴィス、サルバドール・ダリなどの音楽家・芸術家たちと交流を持ちながら、写真の芸術的な可能性を探究しました。その後の＜水俣＞シリーズに代表される作品に影響を与えた1950～60年代の活動に特にスポットを当て、報道と芸術との融合を目指したスミスの知られざる一面を紹介する初めての試みです。
TOPコレクション Don't Think. Feel.	2026年4月2日～ 6月21日	38,000点を超える写真・映像の収蔵作品を独自の視点で紹介するTOPコレクション展。テーマは「感触＝ものに触れて感じること」。AI時代における人間の共感覚と感性の可能性を考えます。「感じること」の重要性を説いた香港の武術家・俳優・哲学者ブルース・リー（1940-1973）の言葉「Don't Think. Feel.」を手がかりに、五感を触発する作品を中心に、「家族写真の歴史民俗学」、「川内倫子 Illuminance」、「記憶の部屋」など、5つのテーマで収蔵作品を紹介します。
出光真子	2026年6月18日～ 9月21日	出光真子（1940-）は実験映画、ビデオアートのパイオニア的な存在として知られ、近年はジェンダーや身体をめぐる国際的な議論の高まりと共に、その先駆的な実践が新たな注目を集めています。この展覧会は初公開作品を含め、出光の創作活動の全貌を振り返る初の大規模な回顧展です。当館は2016・2017年度に作家本人よりフィルム・ビデオ全作品のデータ及び主要なインスタレーション作品を収集しました。展示と上映を組み合わせ、収蔵作品全点を網羅的に紹介します。
TOPコレクション 明日の食卓	2026年7月2日～ 9月21日	TOPコレクション展の2026年度第二弾は、我々の生と切り離せない「食」を取り上げます。現代作家の写真・映像表現を中心に、食にまつわる多様な視点から制作された収蔵作品を展示し、明日の食卓を思考するきっかけを探ります。写真愛好家や家族連れから、食と関係する職業の方、食に関心がある方まで、幅広い層の方々と共に食べること、生きることを再考します。
アジアン・コンテンポラ リー	2026年9月30日～ 2027年1月17日	三影堂・廈門（アモイ）のチーフキュレーター、滕青云（テン・チンヤン）氏との共同企画により、現在の日本と中国をさまざまな観点から切り取った両国の新進・中堅作家を紹介します。三影堂は、国際的に活躍する写真家、榮榮&映里（ロンロン&インリ）が2007年に北京で設立した、世界でも重要な写真の複合施設です。2018年に続きアジアの現代写真を紹介するこの企画では、経済格差や自然災害、ジェンダーなど身近なテーマに注目します。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京都写真美術館 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

東京都写真美術館（2）

事業名	会期	概要
日本の新進作家 vol. 23	2026年9月30日～ 2027年1月17日	写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘する「日本の新進作家」展の23回目。実際に存在した記憶や素材をもとに、AIやデジタル技術を用いて作品を制作する現代作家たち。記憶、素材、技術などが持つコンテキストを、彼らが制作において再構築するプロセスを探ります。真偽にまどわされることが多い日常での情報との向き合い方を改めて考える機会となることでしょう。
恵比寿映像祭2027	2027年2月5日～21日 （3階展示室のみ3月22日まで）	恵比寿映像祭は、2009年の第1回開催以来、年に一度恵比寿の地で、展示、上映、ライブ・パフォーマンス、トーク・セッションなどを複合的に行う映像とアートの国際フェスティバルです。映像分野における創造活動の活性化と、優れた映像表現やメディアの発展を過去から現在、そして未来へと継承し共有する場となっています。近年では社会共生の取組や、新進作家の発掘・支援、地域とのつながりの強化やワークショップの開催等にも力を入れています。誰もが映像に親しめる恵比寿最大のアートフェスティバルとして充実を図っています。
北野謙	2027年3月6日～ 6月6日	宇宙論的なスケールで人間の視覚を超えたヴィジョンを表現する写真家・北野謙（1968-）の個展。北野は「個と社会」あるいは「他者」について、写真でしかできない手法を通して追求してきました。今回は主に「光を集める」プロジェクトと長時間露光による作品シリーズに焦点をあてます。赤道と北極圏を含む地球上の各地に半年間から1年間カメラを設置し、冬至一夏至の太陽の軌跡を焼き付ける同プロジェクトの新作・完成版が見どころです。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
詳細は東京都写真美術館 広報担当までお問い合わせください。
※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

お問い合わせ

東京都写真美術館

〒153-0062 目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

TEL: 03-3280-0099 / WEB: <https://www.topmuseum.jp>

開館時間: 10:00～18:00（木・金曜日は20:00まで）※入館は閉館時間の30分前まで

休館日: 月曜日（祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館）、年末年始ほか

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。

東京都現代美術館（1）

事業名	会期	概要
ソル・ルウィット オー ブン・ストラクチャー	2025年12月25日～ 2026年4月2日	ソル・ルウィット（1928–2007）は、アイデアを主軸とする作品を通して、芸術とは何でありうるかという問いに向き合った、20世紀後半を代表する米国出身のアーティストです。本展は、日本の公立美術館における初の個展として、ウォール・ドローイング、立体・平面作品、アーティスト・ブックなど、その広範な仕事を検証します。
開館30周年記念 MOTコレ クション マルチプル_セ ルフ・ポートレート／中 西夏之 池内晶子 一弓形 とカテナリー	2025年12月25日～ 2026年4月2日	東京都現代美術館の幅広い収蔵作品の中から、さまざまな組合せや新しいテーマによる展示を行い、コレクションの新たな魅力をお伝えします。
ミッション∞インフィニ ティ 宇宙+量子+芸術	2026年1月31日～ 5月6日	宇宙や量子などのサイエンス領域とアートのコラボレーションを通して「世界の成り立ち」や「見えない世界」について考える企画展です。科学者らの宇宙研究やアーティストの「宇宙」に関する作品群に加え、「時と空間」が不思議なふるまいを見せる「量子」の領域に取り組む、新たな表現の可能性を紹介します。表現領域を拡張しようとする作り手らの試みを、多様なインスタレーションやXR展示で体験的に展開します。
エリック・カール展 はじまりは、はらぺこあ おむし	2026年4月25日～ 7月26日	『はらぺこあおむし』日本語版50周年を記念して、米国・マサチューセッツ州にあるエリック・カール絵本美術館と共に開催します。27冊の絵本の原画に加え、グラフィックデザイナー時代の作品、アイディアの最初の構想段階で作られるダミーブック、コラージュに使用する素材など約180点を展示します。原画の色鮮やかさ、デザイナーとしての造本の工夫、そして絵本に込めた子供達への優しいまなざしを体験いただけます。
MOTコレクション	2026年4月28日～ 8月16日	東京都現代美術館の幅広い収蔵作品の中から、さまざまな組合せや新しいテーマによる展示を行い、コレクションの新たな魅力をお伝えします。
コシノヒロコ展	2026年5月26日～ 7月26日	東京都とアーツカウンシル東京は、ファッションや洋服を題材に、楽しみながら創造性を育む「ネクスト・クリエイション・プログラム こどもファッションプロジェクト」を2024年より実施。本展はその関連企画として、現在も第一線で活躍を続けるデザイナー、コシノヒロコ（1937-）の仕事を概観します。歴代コレクションで発表された洋服、ファッションデザインと並行して心血を注ぎ、そのデザインの源としてきた絵画制作、若手アーティストとのコラボレーションなどを通して、未来の持つ可能性を絶えず見つめて歩んできたコシノヒロコの全貌に迫ります。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京都現代美術館 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

東京都現代美術館（2）

事業名	会期	概要
多田美波	2026年8月29日～ 12月6日	彫刻からレリーフ、シャンデリア、建築の仕事まで、多彩な分野で活躍した多田美波（1924-2014）の、東京では35年ぶりとなる個展を開催します。高度経済成長を機に次々と生まれた工業素材や技術を芸術表現へ取り入れた先駆者であり、近年も国内外で再評価が高まる女性作家の軌跡をたどります。初期の絵画作品から、光の反射や透過を取り入れた代表的な彫刻、建築空間のための造形作品までを、関連資料と共に展示します。
共時的星叢一時を共にした星たち 越境する芸術のまなざし	2026年9月5日～ 12月13日	日本と台湾における近代の受容と発展を、美術、映画、文芸、音楽など多様な芸術文化を切り口に再考します。映画監督・黄亜歴（ホアン・ヤーリー）は映画『日曜日の散歩者』で、日本統治下の1930年代に台湾で結成されたモダニズム詩社「風車詩社」の文化的交流や葛藤を斬新な手法で描きました。その実験的な映画言語を反映した空間で、時代や地域、ジャンルを越え表現を共鳴させることで、現代の視点から近代を見つめ直す試みです。
MOTコレクション	2026年9月19日～ 2027年1月6日	東京都現代美術館の幅広い収蔵作品の中から、さまざまな組合せや新しいテーマによる展示を行い、コレクションの新たな魅力をお伝えします。
TOKYO ART BOOK FAIR 2026	2027年1月21日～24日、 1月29日～31日	TOKYO ART BOOK FAIR 2026では、独創的なアートブックやZINE（自主制作出版物）を制作する国内外の出版社、ギャラリー、アーティストら出展者が会場である東京都現代美術館に集結し、それぞれの印刷物の魅力を直接のコミュニケーションを通して来場者へと伝えます。ひとつの国や地域の出版文化に焦点を当てる企画「Guest Country」や、老舗から新進気鋭の出版社、さまざまな分野で活躍するアーティストやデザイナーらを、展示やトークイベントを通して紹介し、豊かな出版シーンを紐解きます。
ハンス・ハーケ	2027年2月6日～ 5月16日	1960年代のニューヨークで展開されたコンセプチュアル・アートの中心人物として、この運動を、権力・経済・文化が複雑に絡み合うシステムへの批判的な問いかけへと導いたハンス・ハーケ（1936年、ドイツ、ケルン生まれ）のアジアにおける初の大規模回顧展。環境問題から政治的・企業的権力への追及まで、歴史的な作品やプロジェクトを幅広く紹介し、ハーケの実践とその現代における意義を包括的に提示します。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京都現代美術館 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

東京都現代美術館（3）

事業名	会期	概要
サンプライド財団との共催展	2027年2月6日～5月16日	サンプライド財団は、性的少数者（LGBTQ+）を含めた全ての人々の共存と平等の実現に貢献することをミッションに、作品收藏や展示活動等を行っています。同財団と連携する本展覧会は、ジェンダーとセクシュアリティに関する今日的な問いをテーマに、收藏作品、作家からの借用作品ならびに委嘱作品で構成する国際グループ展です。
MOTアニュアル2026	2027年2月20日～5月30日	MOTアニュアルは、多様な文化や表現が交差する東京を拠点に、現代美術の一側面を切り取り、問いや議論の契機を生むグループ展です。「MOTアニュアル2026」では、現代美術、舞台芸術、実験音楽を横断する若手アーティストたちの多彩な試みを紹介し、身体を通して過去と現在をつなぎ、感覚や体験に新たな地平を開きます。特に、個人や社会の記憶を呼応させるパフォーマンスに焦点を当てます。
MOTコレクション	2027年2月20日～5月30日	東京都現代美術館の幅広い收藏作品の中から、さまざまな組合せや新しいテーマによる展示を行い、コレクションの新たな魅力をお伝えします。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京都現代美術館 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

お問い合わせ

東京都現代美術館

〒135-0022 江東区三好4-1-1（木場公園内）

TEL: 03-5245-4111 / WEB: <https://www.mot-art-museum.jp>

開館時間: 10:00～18:00

休館日: 月曜日（祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館）、展示替え期間、年末年始

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。

トーキョーアーツアンドスペース [TOKAS] (1)

会場：TOKAS本郷

事業名	会期	概要
TOKAS-Emerging 2026	第1期 2026年4月4日～5月3日 第2期 2026年5月16日～6月14日	これまでに300名以上の新たな才能を紹介してきた、若手アーティストの個展開催プログラム。日本在住35歳以下の作家186組の応募者から、6名を選出しました。新進気鋭の作家による平面、立体、映像やインスタレーションなどの作品を発表します。
トーキョーアーツアンドスペース レジデンス2026 成果発表展	第1期 2026年6月27日～8月2日 第2期 2026年8月15日～9月20日	TOKASのレジデンス・プログラム参加作家14名による成果発表展。2025年度にTOKASレジデンス（東京都墨田区）や海外の7つの提携機関に滞在した作家たちが、プログラムを経て制作、発展させた作品を紹介します。
TOKAS Project Vol. 9 「東京×ソウル」	2026年10月3日～11月8日	海外のアーティストやキュレーター、文化機関と連携し、多文化的な視点からさまざまなテーマについて思考する企画展。TOKASのレジデンス・プログラムの提携都市であるソウルとの交流20周年を記念し、招聘・派遣した作家による展覧会を開催します。
OPEN SITE 11	第1期 2026年11月21日～12月20日 第2期 2027年1月9日～2月7日	時代を反映した独自の視点で、領域横断的・実験的な新しい表現の創造を目指す企画公募プログラム。展示やパフォーマンス、ワークショップなど多岐にわたる作品を発表します。
ACT (Artists Contemporary TOKAS) Vol. 9	2027年2月20日～3月21日	TOKASのプログラムに参加経験があり、いま、注目すべき活動を行うアーティストを中心とした企画展を開催します。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細はトーキョーアーツアンドスペース 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

トーキョーアーツアンドスペース [TOKAS] (2)

会場：TOKASレジデンシー

事業名	会期	概要
キュレーター・トーク	2026年6月26日、10月23日、2027年2月26日	TOKASレジデンシー（東京都墨田区）に滞在する海外拠点のキュレーターが、レクチャー形式で自身の活動や拠点とする国/地域のアートシーンについて紹介します。
オープン・スタジオ 2026-2027	2026年7月17日～19日、11月13日～15日、2027年3月12日～14日	TOKASレジデンシー（東京都墨田区）に滞在する国内外のクリエイターが、リサーチの過程や制作した作品を公開します。展示のほか、トークイベントや、スタッフによる作品解説、施設見学ツアーも実施します。
普及プログラム	2026年8月	現代アートの分野で活躍するアーティストを招き、小学生以上を対象としたワークショップをTOKASレジデンシー（東京都墨田区）のスタジオで開催します。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
詳細はトーキョーアーツアンドスペース 広報担当までお問い合わせください。
※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

お問い合わせ

トーキョーアーツアンドスペースオフィス

〒135-0022 江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内
TEL: 03-5245-1142 / WEB: <https://www.tokyoartsandspace.jp/>
対応時間: 10:00～18:00（平日のみ）

トーキョーアーツアンドスペース本郷

〒113-0033 文京区本郷2-4-16
TEL: 03-5689-5331 / 開館時間: 11:00～19:00
休館日: 月曜日（祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館）、展示替え期間、年末年始

トーキョーアーツアンドスペースレジデンシー

〒130-0023 墨田区立川2-14-7-1F（オフィス501）
TEL: 03-5625-4433
※キュレーター・トークは19:00～20:30、オープン・スタジオ各回金曜日は13:00～19:00、
土・日曜日は11:00～18:00、普及プログラムは開催時間未定

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。

東京都渋谷公園通りギャラリー（1）

事業名	会期	概要
ふれあうやきもの	2026年2月14日～ 5月10日	作り手の思いを受け止め、自在にその形を変えることができる粘土。この粘土を創作活動に取り入れてきた国内4つの福祉施設で「やきもの」の制作にさまざまな形で関わる7名の作り手による作品を二つの視点から紹介します。一つ目の視点「粘土とふれあう」では、心に描くイメージを立体的な形に表現する過程に着目します。二つ目の視点「人とふれあう」では、やきものを制作する場とそこに関わる多様な人々のふれあいに着目します。
心の声をきく わたしを 生きる術（すべ）	2026年6月27日～ 8月30日	「ご自愛」や「セルフケア」等、自分をいたわり、氣にかけることへの関心が高まっています。この展覧会では、その一つの方法として、心の声をきくことに焦点をあて、自然との関わりや日常の中で紡がれる表現、自分の心地よさを通して自分自身と向き合うように制作する作家を紹介します。渋谷の喧騒を離れ、やすらぎ展示空間でそれぞれが自分とゆっくり向き合う時間となることを目指します。
アール・ブリュット2026 巡回展	【東京都渋谷公園通り ギャラリー】 2026年10月10日～ 12月27日 【都内巡回会場】 2027年1月～2月	アール・ブリュットの作家や作品を広く東京都内で紹介し、多様な人々の多様な表現に触れる機会をつくります。東京都と共に区市町村などと連携し、東京都渋谷公園通りギャラリーのほか、都内の2つの会場を巡回します。
自分の食べたいものを食 べるのは意外と難しい	2027年2月27日～ 5月9日	毎日の食事の時間ごとに、「何を食べるか」という決定を多くの人が行っています。しかしそれは、経済的や健康的理由、痩せたいという気持ちなどから自由なものではなく、時に難しい選択になります。だからこそ「何を食べたいか（食べたくないか）」について考えることは、自分を知り、他者を知ることにつながります。この展覧会では、アール・ブリュットや現代美術の作品を介して、食べることについて考えます（実際に食べられる作品は展示されません）。
交流プログラム	通年	多様な身体性や感覚など、さまざまな背景をもつ参加者が、参加者同士やアーティスト・専門家などと交流することで、多様な創造性や新たな価値観に触れることができる、対話的で創造的、インクルーシブな交流プログラム（トーク、ワークショップ、パフォーマンスなど）を実施します。
交流プログラム いっしょにアトリエ	2026年6月27日～ 8月30日	「いっしょにアトリエ」は、創作を中心としたさまざまなアトリエ活動をおこないます。ふらっと立ち寄って、ちょっとのぞいてみたり、じっくりつくってみたり、自由なかかわり方で参加できるオープンな場です。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京都渋谷公園通りギャラリー 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

東京都渋谷公園通りギャラリー（2）

事業名	会期	概要
交流プログラム RAW05	2026年9月中旬頃	パフォーマンス・シリーズ「RAW」は、音楽やダンス、演劇、対話など、展示という形式では扱うことが難しい「生の表現」が生まれる場を、アーティスト同士や観客の反応を踏まえながら展開するプログラムです。今回は、ケアと独自の身体性をテーマに行います。
交流プログラム Kids meet 06	2026年10月～ 11月頃	子どものプログラム「Kids meet」シリーズは、さまざまなバックグラウンドを持つ子どもたちが、アートの体験を通じて偶然の出会いや想像もできないものごとと巡り合い、対話する機会を創出します。この体験によって、子どもたちの世の中をみる視点や世界が広がり、さまざまな価値観を尊重する豊かな想像力が引き出せる場を目指します。
交流プログラム アートプロジェクト	通年	学芸員がさまざまなゲストと共にテーマを語りあう音声コンテンツ「渋谷ギャラジオ」や1990年代以降の先人たちの活動を振り返るインタビュー動画「モチーフのトレッキング」などのオンライン配信、主にパーキンソン病の方を対象にどなたでも参加できる「ダンス・ウェル」などを実施します。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
詳細は東京都渋谷公園通りギャラリー 広報担当までお問い合わせください。
※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

お問い合わせ

東京都渋谷公園通りギャラリー

〒150-0041 渋谷区神南1-19-8 渋谷区立勤労福祉会館 1F

TEL: 03-5422-3151 / WEB: <https://inclusion-art.jp>

開館時間: 11:00～19:00

休館日: 月曜日（祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館）、展示替え期間、年末年始

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。

東京文化会館（1）

事業名	会期	概要
上野 de クラシック	2026年4月～2027年3月（年6回） 2026年4月22日 ほか	東京音楽コンクールの入賞者の支援を目的に開催するコンサートです。休館中は旧東京音楽学校奏楽堂に場所を移し平日午後に開催予定です。 会場：小ホール(4月のみ) および旧東京音楽学校奏楽堂
第24回 東京音楽コンクール	第2次予選 2026年8月20日～22日 本選 2026年8月25日、27日、29日	新人若手音楽家の発掘を目的としたコンクールです。2026年度は、ピアノ、弦楽、金管の3部門を対象に開催します。本選ではオーケストラ伴奏による演奏審査を行い、各部門の第1位から第3位の入賞者などを選出し、表彰式を行います。 第2次予選（公開審査） 会場：すみだトリフォニーホール 本選（公開審査） 会場：東京芸術劇場
東京音楽コンクール 優勝者&最高位入賞者コンサート	2027年1月11日	第24回東京音楽コンクール各部門優勝者・最高位入賞者の披露演奏会です。各演奏後の司会者によるインタビューを通して、ソリストの人物も紹介します。 ソリスト：ピアノ部門、弦楽部門、金管部門の各優勝者または最高位入賞者 指揮：高関 健 管弦楽：読売日本交響楽団 会場：東京芸術劇場
新進音楽家国際キャリアアップ支援	2027年2月25日 ほか	作曲家オンドレイ・アダメクやIRCAMエンジニアを招聘し、東京音楽コンクール入賞者や新進音楽家にマスタークラスを提供します。また東京音楽コンクール入賞者と、レ・シエクルの首席ヴィオラ奏者キャロル・ロト＝ドファン等のレ・ヴォルク音楽祭のアーティストとの共演によるコンサートを実施することにより、新進音楽家の国際交流・研鑽の機会を創出します。 会場：浜離宮朝日ホール

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
 詳細は東京文化会館 広報担当までお問い合わせください。
 ※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

東京文化会館（2）

事業名	会期	概要
舞台芸術創造事業 IRCAMシネマ ～ボンピドゥー・センターと歴史的無声映画のコラボレーション～（予定）	2027年2月24日	IRCAM(フランス国立音響音楽研究所)で行われるマニフェスト・アカデミー参加者がアニメーション映画に合わせて作曲した作品を生演奏で映画と共に上演します。多彩な打楽器で繰り広げられる映画の世界をお楽しみください。 作品調整中 会場：浜離宮朝日ホール
貸館連携事業	年3回程度開催	次世代を担う子供たちや高齢者などを対象とし、貸館利用者との連携により、オペラやバレエ公演と連動したワークショップや公開リハーサル、バックステージツアーなどを行います。 会場：大ホール ほか
国内外連携事業	年3回程度開催	国内外の文化施設と連携し、若手アーティストの活躍の場の提供や、東京文化会館ミュージック・ワークショップなどを行います。 会場：軽井沢大賀ホール ほか
Music Program TOKYO Enjoy Concerts!	年27回以上開催	東京の音楽文化の活性化・創造力の向上を目指し、「創造性」と「参加性」を柱とした事業として、多彩なコンサートを実施します。 ・シアター・デビュー・プログラム ・プラチナ・シリーズ ・シャイニング・シリーズ ・まちなかコンサート
Music Program TOKYO Workshop Workshop!	年130回以上開催	ポルトガルの音楽施設「カーザ・ダ・ムジカ」をはじめとした、国内外のさまざまな機関と連携し、多様なワークショップを開催するほか、ワークショップ・リーダーの育成プログラムを実施します。また、地域文化施設と連携し、若手アーティストによる地域活性化を目指す事業に取り組みます。 ・国際連携企画 ・東京ネットワーク計画 ・コンビビアル・プロジェクト

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京文化会館 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

東京文化会館（3）

事業名	会期	概要
Music Program TOKYO Music Education Program	年60回以上開催	次世代を担う子供たちを中心に、幅広い層に向けて企画された、「創造性」と「参加性」を重視した音楽教育プログラムを通年で実施します。 ・Talk & Lesson ・アウトリーチ・コンサート ・アウトリーチ・ワークショップ
音楽クリエイター育成プロジェクトTokyo&Paris to the NEXT 成果発表	2027年2月26日	東京文化会館がパリのIRCAM（フランス国立音響音楽研究所）と共同で邦人若手作曲家に委嘱を行うプロジェクトです。 2年にわたりIRCAMで複数回のクリエイションを行い、2026年度は向井響がエレクトロニクスを使用して作曲した新作をパリと日本で発表します。 会場：浜離宮朝日ホール
フレッシュ名曲コンサート	年22回程度開催	都内の区市町村及び区市町村が指定する団体との共催によりオーケストラや室内楽のコンサートを実施します。次代を担う新進気鋭の音楽家が毎年活躍しています。 会場：都内各ホール

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京文化会館 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

お問い合わせ

東京文化会館

〒110-8716 台東区上野公園5-45

TEL: 03-3828-2111 / WEB: <https://www.t-bunka.jp/>

開館時間: 10:00～22:00

休館日: 年末年始、保守点検日 ほか

東京都において全面的な設備機器更新等の大規模改修工事を行うため、以下の期間休館いたします。

【休館期間】令和8年5月7日～令和10年度中（予定）

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。

東京芸術劇場：音楽（1）

事業名	会期	概要
リサイタル・シリーズ	2026年4月8日、2027年1月23日、2月19日	<p>東京芸術劇場 コンサートホールの豊かな響きは室内楽やピアノ・リサイタルにも適しています。昨年に引き続きピアノ・デュオを主軸とした『VS』シリーズに加え、国際的に活躍しているピアニストのソロリサイタルを実施します。</p> <p>出演：イム・ユンチャン、ルーカス&アルトゥール・ユッセン、福岡洸太郎&フロリアン・ノアック</p>
水野修孝／『交響的変容』	2026年5月10日	<p>次期芸術監督（音楽部門）・山田和樹と東京芸術劇場が繰り広げる、新しいプロジェクト「山田和樹&東京芸術劇場 交響都市計画」。その第1弾として、編成・演奏時間ともに邦人作品史上最大級とされ、1992年の初演以来「再演は不可能」とされた、水野修孝作曲『交響的変容』の再演を行います。</p> <p>出演：山田和樹（指揮・プロデュース） 読売日本交響楽団（管弦楽） 東京混声合唱団、栗友会合唱団 [合唱指揮：栗山文昭、碓山隆一郎] 林英哲（太鼓）、武藤厚志（ティンパニ） 水戸博之（総合監修） 会場：コンサートホール</p>
シアターオペラ vol. 20 ／ジュゼッペ・ヴェルディ『イル・トロヴァトーレ』（新演出）	2026年11月21日	<p>コンサートホールの特徴を最大限に活かしたシアターオペラ・シリーズの第20回です。19世紀のイタリア・オペラに革新をもたらした、作曲家ヴェルディの代表作『イル・トロヴァトーレ』を、全国共同制作作品として上演します。</p> <p>曲目：ジュゼッペ・ヴェルディ／『イル・トロヴァトーレ』 出演：熊倉優（指揮）、高岸未朝（演出） ザ・オペラ・バンド（管弦楽）ほか 会場：コンサートホール</p>
音楽大学オーケストラ・フェスティバル	2026年11月23日、29日、2027年3月28日	<p>首都圏8つの音楽大学と2つの公共ホールが連携して行う音楽大学オーケストラ・フェスティバルです。秋の大学別公演、春の選抜メンバーで結成した合同オーケストラ公演を行い、若手演奏家の交流・育成を図ります。このフェスティバルは各大学間の交流と協力を目的としています。</p> <p>出演：東京藝術大学、桐朋学園大学、東京音楽大学、武蔵野音楽大学、音楽大学フェスティバル・オーケストラ（管弦楽） 会場：コンサートホール</p>
「TMTギア」音楽プロジェクト公演	2027年2月6日～7日	<p>「TMTギア」は、岡田利規次期芸術監督（舞台芸術部門）・山田和樹次期芸術監督（音楽部門）と当館スタッフがメンターとなり、若手アート・クリエイターの制作支援と海外発信を目指すプロジェクトです。2024年度に公募した、音楽分野3名によるアート・クリエイターの企画公演を東京芸術劇場で実施します。</p> <p>会場：シアターイースト、シアターウエスト ほか</p>

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
 詳細は東京芸術劇場 広報担当までお問い合わせください。
 ※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

東京芸術劇場：音楽（2）

事業名	会期	概要
オルガン・ア・ラ・カルト (リサイタル・ナイト・ ランチ・講座)	通年	<p>東京芸術劇場が誇るパイプオルガンは、世界で唯一、回転機構を備えた特別な楽器です。その特性を活かし、多彩なコンサートや講座を通じて、オルガンの魅力をお届けします。</p> <p>出演：徳岡めぐみ、ジャン=フィリップ・メルカールト ほか 会場：コンサートホール</p>
芸劇オーケストラ・アカデ ミー・フォー・ウインド	通年	<p>プロフェッショナルを目指す若手奏者を対象とした、無償の音楽家育成アカデミープログラムです。レッスンやコンサートを通じた演奏指導を行うだけでなく、キャリアアップゼミを開講して社会で活躍するためのセルフプロデュース力を研鑽していきます。</p> <p>会場：リハーサルルーム ほか</p>
GOA+（若手音楽家支援事 業）	通年	<p>芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインドの在籍生、卒団生が東京都内のイベントに出演し、クラシック音楽をより身近な存在へと広げていくプログラムです。さまざまな団体・施設からの演奏依頼に応じ、出演者を派遣します。</p> <p>会場：東京都内</p>
芸劇×読響ジュニア・アン サンブル・アカデミー	年10回程度開催	<p>弦楽器の演奏経験のある小・中・高校生を対象に、読売日本交響楽団のメンバーが演奏指導にあたるエデュケーショナル・ワークショップです。読売日本交響楽団のメンバーと共に成果発表を行う機会も予定しています。</p> <p>会場：リハーサルルーム ほか</p>
読響 土曜・日曜マチ ネーシリーズ(共催事業)	通年	<p>日本を代表するトップ・オーケストラのひとつ、読売日本交響楽団との事業提携に基づき、土曜・日曜の午後に開催する人気のコンサート・シリーズです。</p> <p>会場：コンサートホール</p>
大ホール活性化事業(提携 事業)	通年	<p>午前中に開催するリサイタル、室内楽の人気企画「ランチコンサート・シリーズ」、東京二期会とのコンチェルト・シリーズ（オペラ）、旬のソリストや合唱団との海外オーケストラ公演、ジャズ公演など、一流の演奏家によるコンサートを通年開催します。</p> <p>会場：コンサートホール</p>

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京芸術劇場 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

東京芸術劇場：演劇・舞踊（1）

事業名	会期	概要
NODA・MAP共催公演 「華氏マイナス320°」	2026年4月10日～5月31日	<p>2026年3月末で芸術監督を退任する野田秀樹氏による新作公演を共催事業として上演します。野田氏の作品は、常に高い評価と、注目を集めており、芸術文化の発信拠点としての芸術の賑わいと評価向上に大きく貢献してきました。劇場の認知度をさらに高め、幅広い観客層の拡大を目指すことで、劇場の新たな賑わいを創出します。</p> <p>会場：プレイハウス</p>
TACTフェスティバル	2026年4月29日～5月5日	<p>毎年ゴールデンウィークに開催している子供も大人も楽しめるフェスティバル。相撲×音楽の新作プロジェクト、フランスからサーカスカンパニーの招聘、親子で楽しめる落語企画、劇場前広場での大道芸、ロワー広場でのイベントなど総合的なフェスティバルを開催します。家族と一緒に楽しめる豊かな劇場体験を提供することで、未来の表現者・鑑賞者の育成を目指します。</p> <p>会場：シアターイースト、シアターウェスト、劇場前広場、ロワー広場ほか</p>
若手共催公演 口口、タカハ劇団	2026年5月15日～24日、11月14日～23日	<p>活躍著しい若手団体との共催により、質の高いレパートリーを取り揃え、劇場のブランド力を強化し、さらなる活性化を図ります。また、東京芸術劇場のサポートを通じて、若手団体の活動を後押しし、広く周知を促進すると共に、新しい観客との出会いを創出し、創造レベルの向上を目指します。</p> <p>会場：シアターイースト</p>
Love Beyond ワーク ショップ	2026年6月	<p>英国発の革新的な舞台作品『Love Beyond』は、手話（British Sign Language）、視覚言語、そして口頭によるセリフを融合させることで、インクルーシブな表現を実現しています。彼らの創作手法や表現技術への理解を深めることを目的にワークショップを行います。</p> <p>会場：リハーサルルーム</p>
NORA	2026年7月	<p>2019年招聘の全編手話で演じる『三人姉妹』の演出で注目されたティモフェイ・クリャービンが演出を担当。19世紀末に父権的な家庭からの女性の自立を描いたヘンリック・イブセンの『人形の家』を、大胆に現代劇としてアダプテーションした作品を日本人キャストで上演します。芸術作品としての上演を通して「女性の社会進出」についてを考える機会とします。</p> <p>会場：プレイハウス</p>

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京芸術劇場 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

東京芸術劇場：演劇・舞踊（2）

事業名	会期	概要
岡田芸術監督就任記念公演	2026年8月7日～23日	<p>岡田利規新芸術監督の就任後第一弾として、岡田氏が脚本・演出を手掛ける新作を発表します。本作は、2026年春にドイツ・ハノーファー州立劇場で上演される作品と同じコンセプトで新たなキャスト、スタッフと共に創作します。キャストはワークショップオーディションで決定し、日本の舞台芸術人材の育成機会とします。</p> <p>会場：シアターイースト</p>
リア王	2026年9月21日～10月4日	<p>シェイクスピア四大悲劇のひとつ「リア王」は“老い”と“世代交替”を描く人間ドラマです。現代社会の高齢化等を背景に近年、上演が増えているこの傑作に、日本演劇界を牽引する演出家森新太郎と実力派俳優で取り組み上演します。</p> <p>会場：プレイハウス</p>
「TMTギア」パフォーミングアーツ・プロジェクト公演	2026年11月	<p>「TMTギア」は、岡田利規次期芸術監督（舞台芸術部門）・山田和樹次期芸術監督（音楽部門）と芸劇スタッフがメンターとなり、若手アート・クリエイターの制作支援と海外発信を目指すプロジェクト。2024年度に公募した、パフォーミングアーツ分野のアート・クリエイターによる企画公演を東京芸術劇場で上演します。</p> <p>会場：シアターイースト ほか</p>
地方公共劇場との共催公演	2026年12月、2027年2月	<p>地方との連携ネットワークの一環として、りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館レジデンス舞踊団のNoism Company Niigataによる舞踊公演、岡山芸術創造劇場 ハレノワによる新作オリジナル・ミュージカル公演、水戸芸術館プロデュース公演の東京公演を共催し、地方で創作された良質な作品を観客に届けます。また、地方公共劇場の作品制作・上演活動を支援し、全国規模での舞台芸術の質的向上を図ります。</p> <p>会場：プレイハウス、シアターイースト</p>
梅田芸術劇場×チャリングクロス劇場共同企画共催公演 「One Small Step」	2027年1月9日～31日	<p>良質な演劇作品を創造する団体の公演を共催することで、自主事業と異なる観客層へアプローチし、観客層を拡大すると共に、質の高い多様なレパートリーを提供し、本格志向の演劇ファンの関心を惹きつけます。</p> <p>2024年にロンドン・チャリングクロス劇場と梅田芸術劇場の共同企画により上演された作品を、脚本の完成度を高め日本人キャストにより上演します。</p> <p>会場：シアターイースト</p>

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京芸術劇場 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

東京芸術劇場：演劇・舞踊（3）

事業名	会期	概要
若手カンパニー・シード・プログラム「ビー・ドラ（Be Drastic）」	2027年2月	若い才能の発掘と育成のために、公募で選出された団体・個人を東京芸術劇場が支援し、シアターウエストでの上演機会を提供します。 会場：シアターウエスト
小野彩加 中澤陽 スペースノットブランク「ダンス作品第4番」	2027年2月	国内外で注目を集める振付家・舞台作家の小野彩加 中澤陽 スペースノットブランクが、最新作をシアターイーストで上演します。「ダンス作品」が成立する場所＝劇場という常識を、劇場に身を置きながら、静かに変質させていく試みを描いた作品です。同一化に向かうのではなく、差異を抱えたまま響き合うアンサンブルの在り方を探究する、新たな時代の表現の可能性を切り拓く意欲作です。 会場：シアターイースト

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京芸術劇場 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

東京芸術劇場：教育普及・人材育成等（1）

事業名	会期	概要
芸劇舞台芸術アカデミー	通年	<p>舞台芸術分野の担い手を育成する、総合的な人材育成プログラムです。公立文化施設や芸術団体等で活躍することを目指す若手人材のための研修制度から、どなたでも気軽に学べる講座まで、「実務研修員 制作（音楽または演劇）／教育普及・社会共生」「シアターコーディネーター養成講座」「公開レクチャー、フォーラム等」の3つのプログラムを実施します。劇場・ホールで実践的かつ理論的に学びながら、キャリアスタートからキャリアチェンジまで体系的にサポートします。</p> <p>会場：東京芸術劇場など</p>
劇場ツアー	通年	<p>「劇場ツアー」では、ツアーガイドが建物の歴史や構造、館内の美術作品や各ホールの特徴などをご紹介します、劇場の魅力をわかりやすくご案内します。</p>
ワークショップ	通年	<p>東京芸術劇場で学びを深めたファシリテーターたちがワークショップを開催します。</p> <p>言語・非言語を活用した演劇ワークショップなどを通して、子供から大人まで、国籍や文化の違いを超えて、だれもが表現を楽しめる機会を提供します。</p> <p>会場：東京芸術劇場及び都内の学校、支援団体施設など</p>
舞台技術セミナー	未定	<p>創造性と安全性を両立させながら、舞台を日々支えている舞台技術専門スタッフが、現場で求められる技術力や判断力について、最前線の情報や知識をお届けするセミナーを開催します。</p> <p>会場：東京芸術劇場</p>
人材育成・教育普及（共催事業）	通年	<p>専門性の高い劇場業務の特質を生かした人材育成事業を拡充するため、大学や高校と連携した学生の公演事業のサポートなどにより、次世代の専門人材を育成します。</p>
のはらカレッジ	通年	<p>多様性から生まれる表現を追求し、多様な領域で活動できる人材育成を目指すDEI（Diversity, Equity, Inclusion）ダンス・ファシリテーション講座。DEIの視点を持つファシリテーターを育成し、講座に加え、福祉施設等でのアウトリーチ活動を実施します。利用者の身体特性に合わせた表現活動を通じ、実践的なファシリテーション経験を積んでいきます。</p>

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京芸術劇場 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

東京芸術劇場：教育普及・人材育成等（２）

事業名	会期	概要
社会共生セミナー	通年	芸術文化でつくる共生社会と包摂的環境の推進をテーマに、公立文化施設関係者をはじめ、福祉NPO、障害当事者、そして社会包摂に関心のあるすべての方を対象として実施するレクチャー。文化芸術を通じた多様な価値観の形成と、芸術が果たす社会的役割について、立場の枠を超えて共に学ぶ場を提供します。
社会共生クリエーション	通年	多様な市民を対象に、身体的・精神的な特性を起点とした価値の表現と発信を行い、従来の上演枠にとらわれない開かれた成果発信の方法を創出します。さらに、多様な市民が主体的に関わる「開かれた劇場」と、新しい参加形態の探求を目的としたプロジェクト「TOKYO CUSTOM DRUMSET（トキョー・カスタム・ドラムセット）」を実施します。
ユース・シアター・プロジェクト	2026年7月30日～8月3日ほか	高校生を対象に、第一線で活躍する演出家や俳優と一緒に演劇作品を創り上げるワークショップを開催します。プロフェッショナルと協働しながら、参加者自身が作品づくりに挑戦し、創作の楽しさと自己表現の喜びを体験できるプログラムです。
アトリウムの賑わい創造事業	通年	劇場前広場やアトリウム空間などのパブリックスペースを活用し、子供から大人まで誰でも体験できる大道芸などのイベントや、さまざまなプログラムで劇場周辺の賑わいを創出します。また、地元の豊島区や池袋エリアの地域主体で実施されるイベントとの連携や、地域・社会の中でアートマネジメントやアートを活用したまちづくりに興味のある人々に地域と芸術の関係を学ぶ機会を提供します。
江戸東京伝統芸能祭	2027年1月～3月頃	能楽・日本舞踊・邦楽・寄席芸能・民俗芸能など伝統芸能公演のほか、伝統芸能を支える仕事紹介など、世代を超えて参加できる体験型プログラムも展開します。令和8年度は新たに親子で歌舞伎を体験できるプログラムも予定しています。
都民音楽フェスティバル	2027年1月～3月頃	オーケストラ・室内楽・オペラ・バレエによる公演と共に、子供向けの体験型事業やアウトリーチ事業を行う音楽フェスティバルを開催します。

※この内容は2026年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京芸術劇場 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

東京芸術劇場：東京舞台芸術祭 2026

事業名	会期	概要
東京舞台芸術祭 2026	2026年秋	<p>実行委員会形式で実施する舞台芸術のフェスティバル。岡田利規次期芸術監督（舞台芸術部門）がアーティスティック・ディレクターをつとめる舞台芸術祭「秋の隕石」ほか都内全域を会場に多彩な舞台芸術のプログラムをお届けします。</p> <p>会場：東京芸術劇場ほか都内全域 主催：東京舞台芸術祭実行委員会〔東京都、東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）〕</p>

※この内容は2026年1月30日現在のもので、事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京芸術劇場 広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

お問い合わせ

東京芸術劇場

〒171-0021 豊島区西池袋1-8-1

TEL: 03-5391-2111 / WEB: <https://www.geigeki.jp/>

開館時間: 9:00～22:00

休館日: 年末年始、保守点検日ほか

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。